道徳のかけ橋

令和４年　４月　発行
第　２５　号
福島県教育庁
義務教育課

深い学びのある道徳科の授業をつくろう

道徳科における １人１台端末の活用

１人１台端末が導入され、試行錯誤の日々が続いていると思います。不安や難しさを感じてしまうこともあるでしょう。

本号では、道徳科における１人１台端末、ICT 活用の事例を紹介します。令和３年度道徳教育推進校の新地町立尚英中学校は ICT 活用を活発に進めている学校です。しかし、常に「この場面で本当に ICT が必要だろうか」と考え、生徒の実態を基に授業をつくってきました。特に「道徳科の学習では、フェイス･トゥ･フェイスの話合いを大切にしたい」という教師の思いがありました。

尚英中学校　第２学年３組の授業実践　指導者：平塚健次郎　教諭

主　題　友情を育てるために【友情、信頼】
教材名　ゴール（東京書籍）
ねらい　登場人物５人のそれぞれの思いについて話し合うことを通して、友情を培うために自分はどうあればよいかを考え、より一層深い友情を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

教材のあらすじ

本教材は、バスケットボール部に所属する５人の女子中学生の話である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたてチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだと知った４人は、リカを誤解していたことに気付き、後悔する。友だち関係の問題や困難を乗り越え、正しく理解することによって、より豊かな人間関係が築かれることを考えることができる教材である。

授業改善のポイント❶

教材を自分事として捉えることができるように、生徒の体験と登場人物の気持ちを重ね合わせて考え、自己を見つめることができるようにする。

授業改善のポイント❷

多面的・多角的に考えることができるように、構造的な板書や ICT（協働学習支援ツール）活用により、意図的指名を行い、話合いをコーディネートする。

授業の実際（授業レポート）

導入

◉　事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。

アプリのアンケート機能を活用すると、生徒の実態把握がしやすく、集計が効率的にできます！

教師　「友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。」という質問ですが、どのような結果だと思いますか？
→ほぼ１００％が「はい」と回答した。回答の理由「自分のことを分かってもらうことで、以前よりも仲よくなれた」を伝えると、生徒たちはうなずきながら共感していた。

教師　「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。」についての結果も見てみましょう。
→半分以上が「はい」という答えであった。他のアンケート項目についても紹介し、自己の経験を振り返り考えることができるようにした。

❶ 事前のアンケートをきっかけとし、自分の生活を振り返ることにより、本時の学習を自分事として捉えることができるようにしました。

教師　みなさんも、友達に支えられたり、友人関係で失敗したりしたことがあるのですね。今日は､友達関係がうまくいかなかった話を使って友情について考えていきましょう。

❶ この導入をきっかけにして、「アンケート結果」、「教材」、「自分」が重なっていきました。

展開

◉ 教材「ゴール」の範読を聞き、トラブルが起きた原因について考える。

教師 なぜこのような状況になってしまったのだろう。
生徒 コミュニケーションが足りないと思う。
教師 どうすればよかったのかな。
生徒 お互いに説明が足りないからこうなったと思う。
教師 どうしてそう思うの？
生徒 キャプテンとして配慮がなさ過ぎるのではないか。
生徒 誰かを外した LINE グループをつくるのはよくないと思う。

❶ 教師は、登場人物の心情理解のみにならないように、「教材の中の登場人物が立たされた状況」に共感させ、それと同じような「自分の経験や体験を想起して、自分の気持ちを考える」ことを最後まで大切にしていました。
　この段階では、自己と重ねることが難しかった生徒も、友だちとの話合いで「自分は…」と問う姿につながっていきました。

授業改善のポイント❷

◉ 登場人物に共感し、道徳的価値の問題場面について考える。

教師 なるほど。友だちとコミュニケーションをとることは大切だとわかっているのに、５人はどんな思いをもっていたのかな。
→ある班の話合いの様子
生徒１ 友達の様子がおかしい時に、声をかけられない気持ちってわかるな。
生徒２ それ、あるよね。でもキャプテンなら頑張って声をかけてほしいよね。
生徒３ SNS でやり取りするからこうなるんじゃない？
生徒２ このグループチャットをつくること自体がおかしくない？
生徒３ 確かに。面倒になりそうだから、僕だったら入らないな。

平塚先生のこだわり！

❷ 生徒の考えを対比させたり様々な立場の考えを位置づけたりできるよう、板書を構想しました。しかし、話合いの拠り所となる構造的な板書についてはこれからの課題です。

授業改善のポイント❷

◉ 協働学習支援ツールの効果的な活用

教師 でも、友だちだよ。断ることができるの？
→話合いが次第に、自分を重ね合わせた発言に変わっていく。
生徒１ ダメだとわかっていても実際断れないよね。
教師 どうしてそう思うの？
生徒２ でも、自分の知らないところでそんなグループチャットができていたらショックだよ。
生徒３ このグループチャットをつくって、何かいいことあるの？ひどくない？
生徒１ それはわかるけど、でも自分が誘われたらどうする？
生徒３ 僕は入らない。「なんでそんなグループ作るの？」って言う。
生徒１ 本当に言えるの？自分の部活だったらどうなの？
生徒３ 確かに…。難しい…。友だちだから言いづらいか…。
→友達の考えを聞き、自分を見つめ直す姿は、多面的・多角的に考え、自己を見つめる姿である。

❷ 教師は協働学習支援ツールによって、生徒全員の考えを手元のタブレットで把握しています。
　多面的・多角的に考えが広がるように、授業全体をとおして意図的に指名しました。このようなことが瞬時にできるのもの、ICT のメリットの１つです。

ICT と板書を効果的に活用している平塚教諭

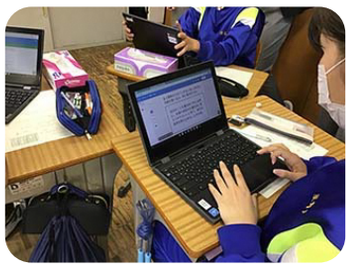
終末

授業改善のポイント❶

◉ 自己を見つめる学習活動の工夫

教師 今の自分から、過去の自分に手紙を書いてみましょう。
→過去に友人関係で失敗してしまった経験を想起し、その時の自分に手紙を書くことで、これからの自分の生き方について考える場とした。

❶ 自己を見つめることができるよう、活動を工夫しました。話合いをとおして、再度、自分を見つめ直し、自分の考えを深める大切な時間です。



生徒のワークシートから（協働学習支援ツールで共有）

　まず、自分の気持ちを相手に伝えてみるといいよ。相手も、誤解しちゃっているところがあると思うし、伝わるとスッキリすると思う。そしたら、相手の気持ちをよく聞いてみよう。自分が誤解しているところや、本当の気持ちがわかると、もっと仲よくなれると思う。

道徳科における ICT 活用の注意点！

　子どもの意見が一律に共有されることはとても便利です。しかし、共有されることに抵抗感をもつ子どもも中にはいるかもしれません。目の前の子どもの実態を考慮し、活用方法を検討してください。また、ワードクラウド（出現頻度が高い単語を複数呼び出し、その頻度に応じた大きさで図示する）機能は、大きな文字で現れたものがあたかも正解のように、多数決定的に感じる子どももいます。使い方によっては「自分の考えは間違っていた」という誤解を与えてしまう可能性があります。道徳科では、言葉にならなくても何とか絞り出した心の声や表情を教師が見取り、話合いにつなげることが大切です。試行錯誤しながら、よりよい道徳科の授業づくりを進めていきましょう。